

講演会「津波防災の教育の実践 ～東日本大震災に学ぶ～」報告

日時:平成 24 年 6 月 2 日(土) 14:00～17:00

場所:えんてつホール (静岡県浜松市・JR 浜松駅前 遠鉄百貨店新館 8F)

参加者数:約 200 名

共催:東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター・豊橋技術科学大学安全安心地域共創リサーチセンター・日本財団

後援:浜松市

平成 24 年 6 月 2 日, 東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターと当センターの共催で, 講演会「津波防災の教育の実践 ～東日本大震災に学ぶ～」がえんてつホール(静岡県浜松市)にて開催されました。

片田敏孝教授(群馬大学, 豊橋技術科学大学客員教授)からは, 岩手県釜石市の小中学校で長年にわたり取り組んできた津波防災教育についてご講演いただきました。東日本大震災では, 釜石市の子どもたちがとった避難判断と行動が多くのメディアで取り上げられましたが, その背景には片田教授が目指す津波防災教育に対する地元小中学校の教員の理解と協働が欠かせませんでした。その上で, 自分の命を主体的に守ることを基本とした防災教育を, 10 年, 20 年と続けることで, 地域の災害文化として定着させることが重要であると訴えました。さらに, 災害に対する脅しや知識で防災の意識を作り出すのではなく, 防災に対する主体的な「姿勢」を醸成する津波防災教育の推進を強調されました。

その後, 青木伸一教授(大阪大学, 豊橋技術科学大学客員教授)を司会に, 各地で防災教育に取り組んでいる研究者によってパネル討論が行われました。青木教授が防災インフラの教育について, 川口達也研究員(東京大学大学院)が水産業復興に向けた産学官連携プロジェクトについて, 井若和久氏(徳島大学大学院)が徳島における中学校での防災教育の取り組みについて, 丹羽淑博特任准教授(東京大学)が簡便に使用できる津波シュミレーションを用いた津波防災教育についてそれぞれが話題提供を行い, その上で防災意識を高める海洋教育について会場からの意見も交えながら話し合いました。



片田教授による講演



講演時の会場



青木教授(パネル討論司会)



丹羽特任准教授



川口研究員



井若氏

